



# 佐倉市における 環境施策に係る取組とその活用

---

千葉県佐倉市企画政策部長 向後 昌弘

# 佐倉市の概況

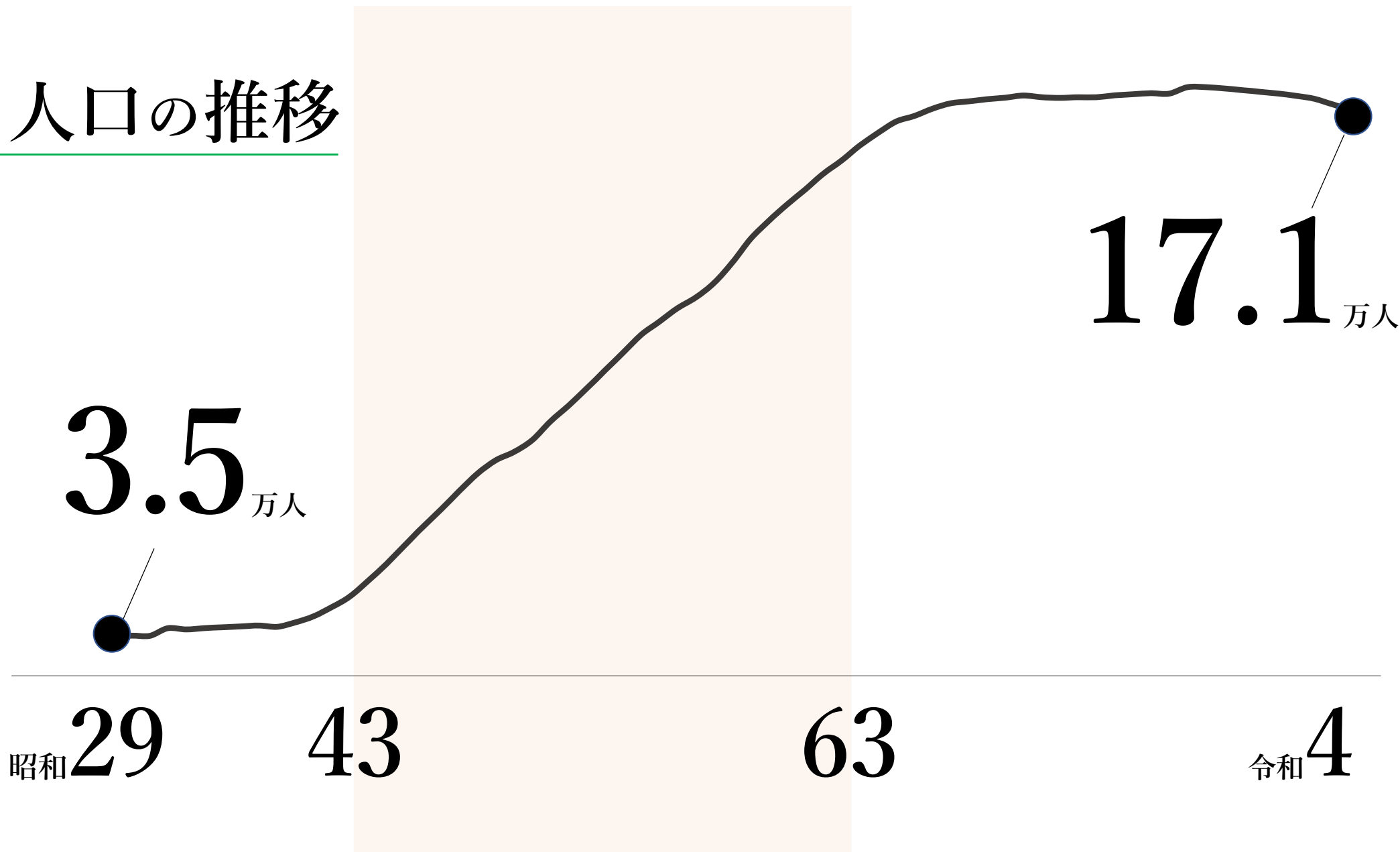
人口；**171,460**人（令和4年末）

面積；**103.69**km<sup>2</sup>

うち市街化調整区域 **79.35**km<sup>2</sup>



# 人口の推移



# 佐倉市の概況



# 環境施策に積極的に取り組んできた背景

- 印旛沼（西印旛沼）の存在

≫ 水質 全国ワースト5の常連

COD

10  
mg/ℓ

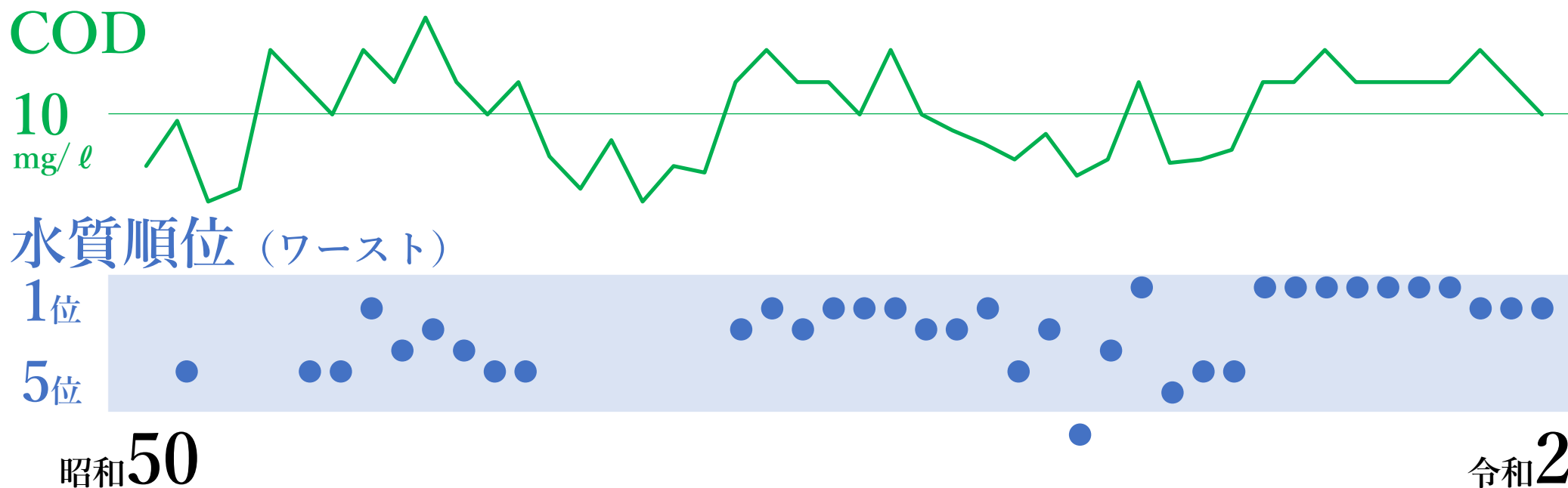
水質順位 (ワースト)

1位

5位

昭和50

令和2



# 環境施策に係る代表的な取組

## • 印旛沼などの水質保全対策

H6.3

水質汚濁防止法に基づく  
生活排水対策推進計画の策定



H9年度～

高度処理合併浄化槽の  
設置に対する独自助成を開始

## • 環境現況調査

昭和52～53年度 河川の生物調査

平成4～6年度 水辺の生物生息調査

平成7～11年度 自然環境調査

# 環境現況調査等一覧

no.	調査名称	調査年度	発展事業等
1	河川の生物調査	昭和52～53年	
2	水辺の生物生息調査	平成4～6年	
	「ホタルの里づくり」事業基礎調査	平成6～7年	城址公園における ビオトープ創出事業
	加賀清水公園における湧水保全基礎調査等	平成7～14年	涵養域における 雨水浸透柵設置補助事業
3	自然環境調査	平成7～11年	
	貴重種調査	平成12～13年	
	湧水モニタリング調査	平成13～14年	谷津環境保全指針策定業務
	西御門環境保全ゾーン自然環境調査	平成16～27年	

# 佐倉市自然環境調査（1996～2000）

## • 実施にあたっての課題

### 1. 市内全域を調査するためのマンパワーの確保

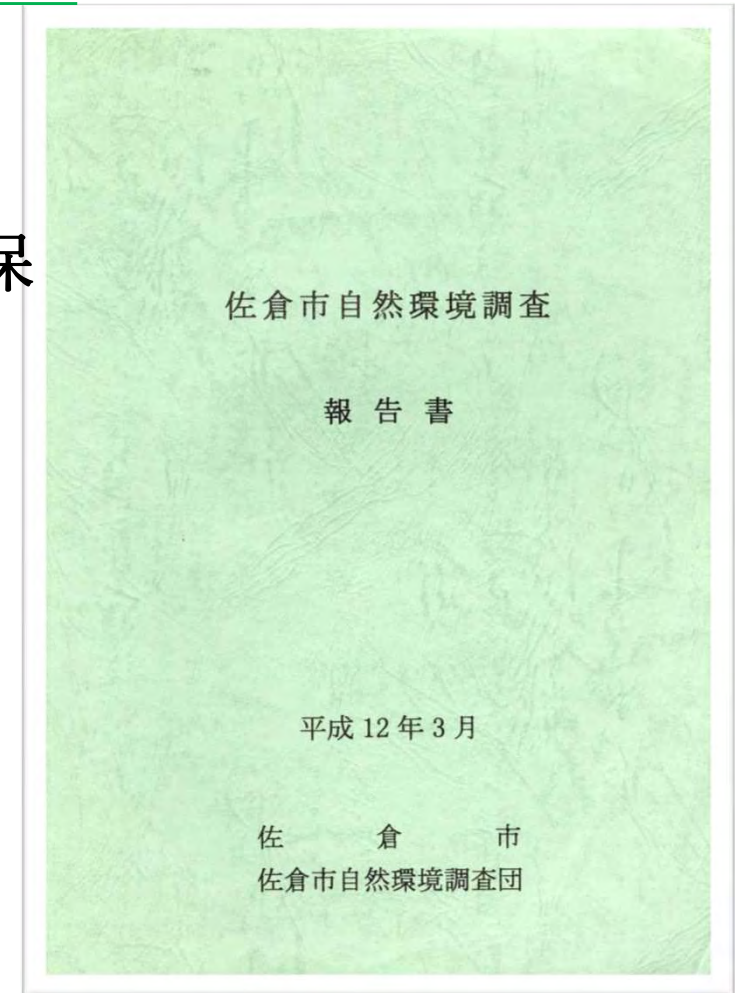
県立中央博物館職員  
地域で活動する研究者



調査団を結成

### 2. 経年調査のための体制の確立

調査の担い手として  
市民ボランティア調査員を育成





# 環境現況調査を活用した取組

---

1. 開発行為等に対する指導・助言の基礎資料
2. 環境教育・学習への活用 ⇒ ビデオ等の制作・配布
3. 谷津田環境の保全 ⇒ 畔田谷津保全事業
4. 雨水の地下水かん養促進 ⇒ 環境保全条例に位置付け  
⇒ 加賀清水流域での浸透マス設置

## ホタルとは…

皆さんはホタルを見たことがありますか？ 夏の夜とホタル、そして、ホタルとたわむれる子供たち…。ホタルは昔から多くの人々に親しまれてきました。そんな、かつてのふるさとの景観は、都市開発が進むにつれて、近年徐々に失われつつあります。

しかし、佐倉市には、その地形や豊かな環境に守られて、幸いにもたくさんホタルの姿を見られる場所が、まだまだ残されています。

どんなホタルが、佐倉市内のどんな環境を好み生息しているのでしょうか。

### 世界的に見て珍しいゲンジとハイケ

ホタルは世界に約2000種が知られています。現在、日本で知られているホタル科の昆虫は約40余りの種類があるとされ、よく発光する仲間と発光しない仲間があります。

光を放つ種類の中で日本を代表するホタルとしては、ゲンジボタルとハイケボタルの2種類があげられます。この2種類は河川や池沼、水田など水との関わりが深い種類で、幼虫の時代には水中で生活し、夏に成虫となって水辺を飛び回るようになります。このような生態をもつホタルは、他にはいません。

#### ゲンジボタル



体 長：12～18㎜  
分 布：北海道を除く日本全域  
食 べ 物：カワニナ  
生息場所：小川など流れのある水辺  
発光形態：東日本型は4秒  
発光時期：5月下旬～7月初旬  
見分け方：胸部の黒線が十字

#### ハイケボタル



体 長：7～10㎜  
分 布：日本全域  
食 べ 物：モノアラガイ、ヒメダニシ  
生息場所：主に田んぼや休耕田の湿地  
発光形態：チカチカと早く光る  
発光時期：6月下旬～8月中旬  
見分け方：胸発の黒線が直線

### ホタルの光り

ホタルの発光は、♂と♀が交尾のための出会いの信号といわれています。ゲンジボタルは、♂と♀ではその光り方や光の強さが違います。強く光り、光を弱減させながら飛ぶのが♂で草や木の上にとまって、弱く光っているのが♀です。これが♂と♀との出会いの信号です。

初夏には、私たちは、その幻想的な光を身近に楽しむことができます。

## その他の生き物たち

ホタルの生息する水路には、ホタルの幼虫やカワニナの他にヤゴ（トンボの幼虫）やカエル、魚などが生息しています。



### 「ホタルの里づくりの事業」とは…

ホタルが生息する場所では、多様な生物相が育ち広げられており、私たち人間が自然と共存していくうえで、重要な環境といえます。佐倉市ではこの環境を保全していくために、平成8年度より「ホタルの里づくり事業」を実施し、ホタルの生息状況などについて調査をおこなっています。

また、この調査結果をもとに、ホタルの生息地の保全、復元、調査を進め、良好な自然環境の保全と環境教育の場の創出をおこなってまいります。

都市近郊で年々減りつつあるホタルを次世代、次々世代まで受け継いでいくために、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

佐倉市経済環境部環境保全課

〒285 佐倉市島崎寺町37番地

☎ 043-484-1111 (代表)

# 佐倉市のホタル








# 環境施策と治水対策

---

- 佐倉市における水害

印旛沼流域最下流の自治体  洪水調整機能強化が課題

令和元年の大雨被害

激甚災害への対応 

**気候変動適応センターの設置検討**



  
Surveying the Earth to Create the Future

2019年10月26日（土） 撮影：株式会社ハスコ / 国際航業株式会社  
2019年10月 豪雨災害（千葉県）



 **PASCO**  
Surveying the Earth to Create the Future

2019年10月26日(土) 撮影：株式会社ハスコ / 国際航業株式会社  
2019年10月 豪雨災害(千葉県)

# 今後の課題

---

- 環境施策の継続的な実施 ⇒ 予算の確保が課題

## 3つの連携

1. 施策連携
2. 広域連携
3. 多様な主体との連携

持続的かつ  
レジリエントな道筋  
への移行

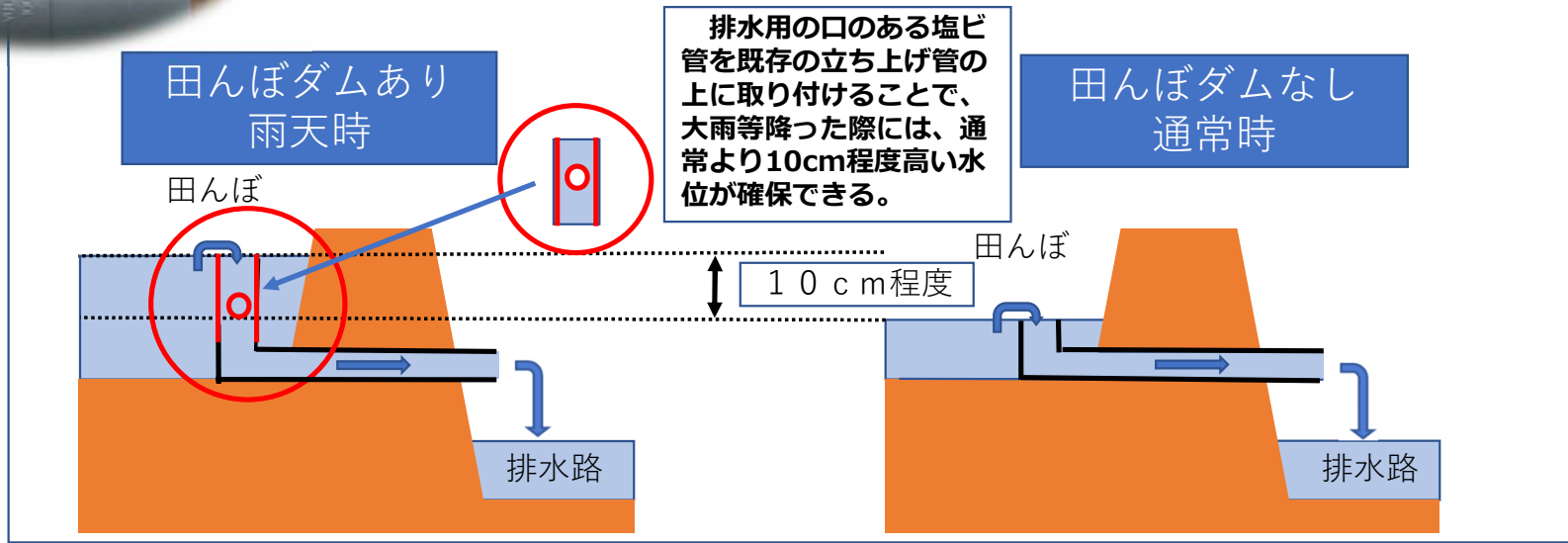








### 田んぼダムのイメージ



雨天時において、通常より10cm程度水位が上昇することで、10cm×田んぼの面積分(30ha)容積としては、30,000m<sup>3</sup>(約3万トン)が一時的に貯水できる。なお、畔が痩せていたり、水稻の生育に影響があるほ場には実施しない。

ご清聴ありがとうございました。

# 研究者の皆さんへ

佐倉市には  
豊かな歴史・自然・文化があります  
人を育む環境があります

是非、  
研究フィールドとしてご活用ください  
オール佐倉で歓迎いたします

佐倉市長 西田三十五

